

【事業名】

イキイキ☆買い物拠点研究会

【事業の目的】

鴨方町みどりヶ丘地区は、昭和40年代に近隣工業地帯のベッドタウンとして開発された大型団地であるが、地区の高齢化率は44.5%となっており、近い将来における住民の移動手段の確保をはじめとして、今後発生する生活課題の解決は、全国的に同様の開発団地における問題ともなっている。

このため、平成28年度から、あさくち未来デッサンを活用し、住民主体の移動サービスの導入の検討を重ね、平成30年度からボランティア運航での本運行の実施に至っている。

また、導入検討の際に行った住民アンケートでは、移動手段の他に『身近な買い物場所』の必要性について、重要度・不満足度とも高いという結果が出ており、高齢化が進む団地内での買い物拠点の確保は喫緊の課題であることが明確となった。

このため、住民が主体となって運営する買い物拠点の整備や、買い物代行の研究を行い、高齢者の外出機会の創出や閉じこもりの防止、生きがいの創出による認知症予防等、高齢者をはじめとした地区住民が、将来にわたっていきいきとした生活を送れる環境の形成、維持を目指す。

【役割分担】

提案団体・・・買い物拠点の運営実施におけた検討・意見交換会等の実施
浅口市・・・情報提供（必要資格、高齢者生活支援の現状等について）

【事業実績】

◎陳列棚等整備、買い物拠点オープン

陳列棚や商品などは住民からの提供で賑わっている。

手作り品や日用品のバザーをはじめ、住民が育てた新鮮な野菜も多く、住民からは好評。

住民からの意見で拠点だとわかる看板の設置やトイレの改修などが必要という声があり、専門家の協力のもと住民の手で看板設置とトイレの改修（便座の交換）を行った。

◎地域住民による意見交換会

民生委員・児童委員を含めた意見交換会を実施。

買い物・交流拠点の整備等、地域課題の解決のための協議を行い、今後の連携体制の検討を行った。

◎住民報告会・次年度事業意見交換会

老人クラブの総会や町内会の理事会などで報告する機会得て、報告・意見交換を実施。

住民へ拠点の紹介や活動の周知のためのチラシを全戸へ配布。

【事業の成果】

住民からの協力もあり、陳列棚の設置や商品の陳列もスムーズに行われ、買い物拠点の設置をすることができた。

また、野菜作りが得意な人は野菜を持参、料理が得意な人はランチ営業を開始するなど、得意技をもった住民の活躍の場ともなり生きがい支援となっている。

また、週に1回移動販売車が訪れ、拠点内の販売品以外のものも買える機会が増え、住民からは「助かる」という声も聞こえる。

イキイキグループとしても、移動支援事業の運営を支えるための別事業の母体ができ、継続した活動の基盤ができたといえる。



イキイキ拠点



陳列棚



住民が持ち寄った野菜



住民が持ち寄った野菜